

平成 22 年度

～受けていますか？がん検診～

がん検診のお知らせ



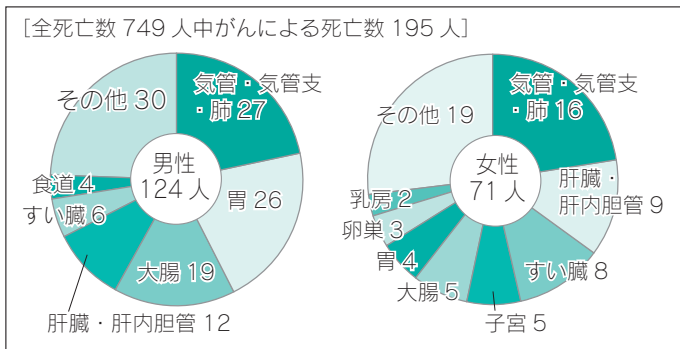
◎問い合わせ先 健康増進課（保健センター内 ☎ 71-1814）

平成 20 年のがんによる死亡の状況をみると、山陽小野田市でがんで亡くなった人は 195 人【図 1】、死因別では 26.0% になります。

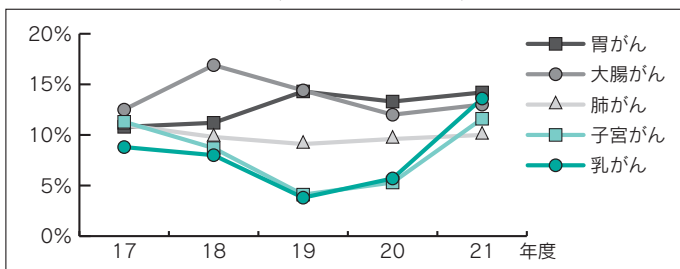
がんは早期発見が大切といわれています。山陽小野田市の 20 年度までの受診率は減少傾向でしたが、21 年度では、胃がん、大腸がん、肺がん検診はわずかに受診率が上がり、子宮がん、乳がん検診については「女性特有のがん検診無料クーポン券」を送付した関係で受診率は大幅に上昇しました。（今年度のクーポン券は 5 月中旬以降に送付します。）【図 2】しかし、国や県はがん検診の受診率を 50% にする目標を掲げており、現状ではかなりかけ離れています。がん検診を受けていない人にその理由を尋ねると、「がんが見つかるのが怖い」「自覚症状のないうちは受けなくて良い」など様々ですが、生活習慣に気をつけながら定期的に検診を受けることで、がんに対する意識を少し変えることが必要です。検診の結果、要精密検査になっても精密検査を受けていない人には、保健師が電話や訪問で受診を勧めています。【表 1】 受けた人からは、「検診を受けたおかげで早期にがんを見つけることができた。検診を受けて良かった。」という声も聞かれました。定期的に検診を受けることで、がんの早期発見が可能になります。まずは検診を受けることが大事です。

【図 1】 男女別部位別死亡数

（単位：人）



【図 2】 検診別受診率 (4 月 26 日現在)



【表 1】 平成 21 年度受診状況 (4 月 26 日現在)

検診別	受診者数	要精密検査者数	精密検査受診者数
胃がん	2,960 人	83 人	79 人
大腸がん	2,718 人	236 人	190 人
肺がん	2,097 人	52 人	49 人
子宮がん	1,188 人	14 人	10 人
乳がん	1,185 人	134 人	125 人

「ホットクないがん検診」



山口県生活習慣病検診等
精度管理指導協議会
胃・大腸がん部会
すずむ
会長 河村 奨

がんに関する統計によると、3 人に 1 人ががんで死亡し、地域がん登録数値からの推計では、男性の 2 人に 1 人、女性の 3 人に 1 人が、がんになると言われている。更に 10 年後は、日本人の 3 人に 2 人ががんに罹患し、2 人に 1 人ががんで死亡すると推計されている。また一方、保険者に義務付けられた特定健診導入の結果、山口県では、各がん検診の大幅な受診者数減を招来している。受診勧奨の質の低下が主な影響と考えられている。わが国では、がん検診が国策として推進されていないことから、欧米や韓国に比べ、10 年程度の遅れを来している。以上のことを踏まえた上で、個人個人の意識改革が必要である。人に言われるのではなく、自分の体は自分で守るのだという強い意志が必要である。行政検診としてのがん検診は、がん死亡減少効果を期待するもので、有効な検診を正しく行ったとしても（主に医師の仕事であるが）、受診率が高くなければ成果が上がらないものである。是非、がん検診未受診者から率先して受診してください。